

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 3 月 9 日

【評価実施概要】

事業所番号	0172500233		
法人名	有限会社 イマージュ		
事業所名	グループホーム 夢		
所在地	余市郡余市町黒川町145番地6 (電話) 0135-21-6222		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年3月5日	評価確定日	平成21年3月31日

【情報提供票より】 (21年1月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 15 年 8 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤13人、非常勤2人、常勤換算12.7人	

(2) 建物概要

建物構造	木造モルタル	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費 21,000円	
			暖房費(10~3月)	8,000円
敷金	有(円)	<u>無</u>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(3月5日現在)

利用者人数	16名	男性	4名	女性	12名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	9名	要介護4	1名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 81.3歳	最低	63歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	余市協会病院、済生会小樽病院、小嶋病院、林病院、よいちクリニック 他
---------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設6年目を迎えるが職員が変わらずに定着しているため、利用者との信頼関係がしっかりと築かれ、利用者との笑顔と笑い声がいつぱいの明るいグループホームである。利用者の自立度に対応できるように、昨年エレベーターを設置したことにより、ユニット間の行き来や外出も安全にできるようになっている。また地域住民とはホームの努力が実り双方向の関係が深まり、保育園児との交流や大学生との交流、ホーム行事の中で地域少年団の和太鼓演奏など、利用者との交流や地域の方々との交流が活発に行なわれている。ホームでの様子や行事の様子をDVDに作成し、写真と日々の状況を記載した近況報告を送付していることで家族も共に楽しみ、良好な関係が築かれている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>開設当初からの理念に地域密着型サービスとして見直しを行ない、追加された理念に作りかえられている。運営に対する家族の意見の反映なども改善項目として挙げられていたが、すべての項目において具体的、確実に改善・実施されている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価に当たっては、評価項目を職員間で分担し、全体会議で話し合いを行ない、日々のケアサービスの見直しや改善の機会として活用している。また各ユニット入り口やスタッフ控え室に掲示して、いつでも見られるようになっている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>昨年度は6回の運営推進会議が開催されており、ホームの概要や運営状況、前回の外部評価結果の報告なども行なわれている。近隣の方々にも参加を促し、また家族にも活発な意見交換の場になるよう工夫、働きかけを行ないながら、定期的な開催が確立されている。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>以前から設置されていた「アンケート箱」について再度案内するなど、ホームとして家族の思いや安心感を大切に捉えている。利用者の日々の暮らしや健康状態などをDVDやブログにして、情報発信をきめ細かく提供していることにより、運営に関しての質問や意見が活発に出され、家族参加の機会が多いホームである。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者の自立度に対応できるように、昨年エレベーターを設置したことにより、ユニット間の行き来や外出も安全にできるようになっている。地域住民とはホームの努力が実り双方向の関係が深まり、保育園児との交流や大学生との交流、ホーム行事への地域住民の参加など活発に行なわれている。近隣に家が建てられた際にはホームの案内や行事、運営推進会議への参加を促すなど、地域との連携の努力は常に実施、継続されている。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初の理念「利用者の意に添い、こころを受けとめ、温かく、生きがいのある生活環境」に「地域とともに」と付け加え、地域密着型サービスとしての理念に見直し、変更されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフが定着していることもあり、理念に基づき質の高いケアサービスの提供に努めている。ホーム内の随所に理念の掲示がなされ、家族への「おたより」にも毎回理念をのせるなど、ホーム理念の浸透を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民とのつきあいは、保育園児や大学生との交流、ホーム行事への地域住民の参加など活発に行なわれている。近隣に家が建てられた際にはホームの案内や行事、運営推進会議への参加を促すなど、地域との連携の努力は常に実施、継続されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に当たっては、職員間で項目を分担し、全員で取り組んでいる。また前回の外部評価結果を受けとめ、改善項目すべてにおいて改善・実施されている。		

余市町 グループホーム 夢

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度は6回の運営推進会議が開催されており、ホーム概要や運営状況、また前回の外部評価結果の報告も行なわれている。近隣の方々にも参加を促し、また家族にも活発な意見交換の場になるよう工夫、働きかけを行ないながら、定期的な開催が確立されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の担当者とは、日頃から相談しやすい関係が築かれており、介護認定時などのホーム来訪時や、ケアマネジャー連絡協議会での交流、余市町グループホーム協議会を作る為連携を図りながら、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の暮らしぶりを伝えたり、必要な電話連絡を行なっている。ホームだよりでは写真付の「おたより」や行事などのDVD、ブログなど工夫をこらし、近況報告を行なっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	以前から設置されていた「アンケート箱」について再度案内するなど、ホームとして家族の思いや安心感を大切に捉えている。運営に関しての質問や意見が活発に出されて、家族参加の機会が多いホームである。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に職員の異動はほとんどないが、新人職員が入った際には家族にも紹介するように心がけており、その時々状況に合わせて、利用者への影響の軽減に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員の資質の確保、向上に向けての育成の重要性を認識しており、常勤、非常勤職員を問わず、全員に積極的な研修参加機会を提供している。外部での研修後は全体会議などで研修内容についての発表を行ない、ホーム全体での共有化がなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は後志管内のグループホームネットワーク作りに熱心であり、同業者同士の共同活動を通してサービスの向上に取り組んでいる。また現在は余市町グループホーム協議会設立間近であり、設立後はより活発に交流の機会を持つ予定である。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係作りと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用を開始する前に十分話し合いを重ね、面談など馴染みの関係が速やかに作れるよう相談しながら工夫している。また入居前の利用者情報収集のため、関係者の連携が十分に図られている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員のケアサービスは、ホームの理念に沿って共に喜びを感じ、分かち合う関係性を築くよう、日々コミュニケーションを大切に心がけ努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で会話や表情、行動などから利用者の思いや意向の把握に努めている。家族との話し合いの中でも利用者の意向を尊重し、カンファレンスで検討して、職員全員で共有し対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画はサービス担当者会議により、意見を出し合いそれに基づいてユニットのケアマネジャーが作成し、ほかのユニットケアマネジャーの意見も取り入れ作成している。受け持ち担当者やユニットに限定するのではなく、職員全員が活発に意見を出し合い検討し作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の入居の際は情報提供書を基に、仮サービス計画書を作成し、その後1ヵ月以内に現状に合った介護計画を作成している。見直しの必要性が理解しやすいようなケアプランマップやケアチェック表、支援経過表を独自に作成し、状況変化に応じて臨機応変に変更・見直しされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況、要望により、医療機関の受診や馴染みの店での買物送迎なども行なっている。また遠隔地の家族の宿泊訪問も柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医による往診診療のほか、かかりつけ医の受診支援を行なっている。緊急時の相談やほかの専門医の紹介など、良好なサポート関係が築かれ、利用者一人ひとりのニーズに合わせた医療支援を行なっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合のホームとしての方針については、利用開始時に利用者及び家族に説明し、同意をいただけるようにしている。状況をみながら利用者、家族の意向を汲み取り医師や関係者間で共有しながら対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護に関する委員会が設置され、個人記録などの管理の徹底が実施されている。また入居の際には家族とも十分に話し合い、意向や希望を聞いて対応に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人ひとりに関心を持ち、意向や希望の訴えだけではなく、表情や動作からも把握し、その都度対応している。食事、入浴の希望や買物など身体状況に配慮しながら、できるだけ利用者の意に沿う支援に努めている。		

余市町 グループホーム 夢

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年1回の嗜好調査を実施し、メニューに反映している。利用者一人ひとりの力量に合わせて、料理の盛り付けや食器洗い、後片付けなどの役割も楽しみになっている。見守り、サポートしながら職員も同席し、ゆっくり楽しく食事が取れるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日の設定はされているが、利用者の状況、希望により、柔軟に対応している。利用者のペースでの入浴支援を行ない入浴を楽しめるように対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴、また現在のニーズ、意向を捉え、生きがいに繋がるような役割や楽しみの支援に取り組んでいる。集団レクリエーションでは職員も加わり、全員が参加して楽しめるように工夫されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い時は、ホームの庭のベンチでの外気浴や散歩、買物に出掛けている。お花見や外食会などの行事のほか、近隣施設に出かけるなど、その日の状況、希望に沿って対応している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠することの弊害を理解しており、日中は開放している。外出傾向の利用者もいるが、玄関センサーやモニターでの察知や、職員全員での利用者の動向把握、見守り強化を実施し、鍵の掛けないケアの実践を行なっている。		

余市町 グループホーム 夢

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消防署の協力をいただいて消火訓練を実施し、合わせて2ヵ月に1回の避難訓練を行っている。様々な災害や夜間帯を想定して具体的に対応を検討し、地域の協力体制も確立されている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を一人ひとりについて把握し、食事量の加減や調理法、代替食の工夫なども行なっている。職員が交代で作成したメニューは、月一回管理栄養士のチェックを得る機会を設け、栄養、カロリーバランスに配慮した食事の提供を行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	改造型の建物であることを感じさせない家庭的な印象のホームである。居間や居室は陽光や湿度の調整などに配慮され、利用者の写真付カレンダーや毎日の食事メニューの写真掲示もあり、居心地よく温かみある共用空間の工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には大容量の収納スペースが設置され、希望者には冷蔵庫の設置もされている。利用者のADLや希望に合わせ、居心地の良い部屋が作られている。安心の場としての温かみのある居室に配慮されている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。